

# 行くぞ! オールナイト

4月6日[土] 23:00

## 8mm&16mm

### 作品大集合!

奇跡のフィルム上映!

8mm

16mm

8mm幅しかないフィルム。もともと、現在のハンディビデオカメラと同じように、家庭用記録フィルムとして生まれたが、劇場公開映画で使用される35mmフィルムと同じ「フィルム」として、長編映画を撮ることに挑戦する「個人映画」などと呼ばれる作家たちが60年代から続々と生まれ80年代まで、特に日本で盛んに続けられた。現像するとそのままポジフィルムになり、ネガが存在しない。つまり8mm作品は世界でその1本しか存在しなくなる、特に取扱いに注意が必要な作品である。

16mm幅のフィルム。35mmフィルムよりカメラも軽く、軽便に扱えるため、ビデオ普及の前には、特にドキュメンタリー映画、文化映画そしてテレビ番組の撮影などに多く使用された。また、「フィルム」撮影の実習のため、映画映像の学校での製作にも活用される。かつて、全国の図書館や文化施設には16mm映写機が設置され、文化映画や、公共施設上映用に16mmフィルムに現像された劇場公開映画の上映が活発に行われていた。

4月6日と4月13日。2度の土曜日を不夜城にする豪華オールナイト企画です。

4月13日[土] 23:00

## グランプリ! グランプリ!

### 『灼熱のドッジボール』

監督:古厩智之(『ロボコン』『武士道シックスティーン])1992年/16ミリ/15分 出演:清水優雅子、松島 創、仲野麻貴

東京に転校していく少女。別れまでの短い時間に、言葉に出来ない想いを託して、河川敷で最後のドッジボールが始まる。交差する視線、コートを跳ぶ体、青春映画の操作がスクリーンに踊る。



『PFFアワード1992』グランプリ&最優秀女優賞&観客賞

### 『五月雨厨房』

監督:中村義洋(『ゴールデンランパー』『みなさん、さようなら])1993年/8ミリ/17分 出演:鈴木智則、正地 敬美、細川 徹

開店を翌日に控えた小さな中華料理店。着々と準備が進む中、突然店長が倒れ、危機を迎えた店の厨房に閉店の時間が迫る… 審査員の筒井隆夫氏が「これぞ映画!と激賞した珠玉作。



『PFFアワード1993』優秀作品賞

### 『電柱小僧の冒険』

監督:塚本晋也(『鉄男』『KOTOKO])1987年/45分(オリジナルは8mm) 出演:仙波成明、叶岡 伸、藤原 京、田口モロヲ、塚本晋也

世界的にファンを有する塚本監督の原点とも言える驚愕作。アニメーションの手法を駆使した血と汗と涙のSFXとスピーディな演出が肝をぬく近未来オリエンタルSF巨編。



『PFFアワード1988』グランプリ

### 『夕辺の秘密』

監督:橋口亮輔(『ハッシュ』『ぐるりのこと])1989年/51分(オリジナルは8mm) 出演:橋口亮輔、白井孝子、遠藤 孝、紫野長男

ある夜、下宿の狭い部屋。同性愛という「秘密」の前で、若者たちは苛立ち、戸惑い、気持ちをひっかきあう。繊細な脚本と卓越した演出。橋口監督は本作で主演も務めている。



『PFFアワード1989』グランプリ&最優秀女優賞

### 『ピクニック』

監督:奥原浩志(『波』『黒い四角])1993年/8ミリ/70分 出演:桜井理子、近藤太郎、奥原浩志

プロのミュージシャンを目指す兄弟の隣室に越してきた1人の若い女性。やがてそれぞれの心に微妙な感情が生まれ…フランス映画のよきニュアンスの獲得と卓越した音楽センスが光る!



『PFFアワード1993』日本船舶振興会賞(キャストング賞)&シャンテ賞(観客賞)

### 『寮内厳粛』

監督:佐藤信介(『GANTZ』『図書館戦争])1994年/16ミリ/18分 出演:石黒紀之、川野宏毅、宮本牧子

ある予備校の学生寮。隣室の橋が薬を使って成績を上げているという噂を聞いた石黒と篠原は、彼の机に白い錠剤を見つけ…プレッシャーに疲れた浪人生達の1日を白黒画面に切り取る。



『PFFアワード1994』グランプリ

### 『雨女』

監督:矢口史靖(『スウィングガールズ』『ロボジー])1990年/72分(オリジナルは8mm) 出演:横井美和、駒場香代子、山口昭三郎

降りしきる雨の中、人の迷惑顧みず突っ走る常軌を逸した2人の女。あらゆる映画手法を駆使し、毒と狂気に満ち、頭からとり憑いて離れなくなるこの衝撃作は2年半かけて完成した。



『PFFアワード1990』グランプリ

### 『5月2日、茶をつくる』

監督:小嶋宏一(1998年/25分 出演:山崎祐作、萩原 豊、澤井真也、城下輝明、永尾裕也)

「めったに撮影できない」茶づくりの清々しい風景。1つのことに集中し続けるときに訪れる、頭の中がからっぽになる「昇華の瞬間」に、テーマと題材が1つに融合し、映画が生まれる。



『PFFアワード1999』グランプリ

### 『犬猫』

監督:井口奈己(『人のセックスを笑うな』)2000年/8ミリ/84分 出演:小松留美、塩谷恵子、鈴木卓爾、川原啓介

真逆な性格なのに、男の好みが何故か一致するヨーコとスズ。反発し合い、傷つけ合いながらも一緒に過ごす小さな家での1日という時間。後に35mm劇場映画としてセルフリメイクされた。



『PFFアワード2001』企画賞(TBS賞)

### 『剥き出しにっぽん』

監督:石井裕也(『川の底からこんにちは』『舟を編む』)2005年/16ミリ/91分 出演:登米裕一、二宮瑠美、西面修也、牧野エミ、桂都んぼ

ざくざくする家の中。ままならない恋愛。将来への不安。シリアスな題材が、どこか憎めないニッポン男子3世代のダメダメぶりを通して描かれ、やわらかな哀愁とユーモアへと変容する。



『PFFアワード2007』グランプリ&音楽賞(TOKYO FM賞)

### 『青～chong～』

監督:李 相日(『悪人』『許されざる者』)1999年/54分(オリジナルは16mm) 出演:眞島秀和、山本隆司、有山尚宏、竹本志帆

纏りこまれたストーリーと画面設計、蔑称「チョン」、朝鮮語で「青」を表す「チョン」、「青春」の「青」。全てを内包するタイトルセンスも見事な、アワード史上唯一の最終審査員からの4賞受賞作品。



『PFFアワード2000』グランプリ&企画賞(TBS賞)&エンターテインメント賞(レントラックジャパン賞)&音楽賞(TOKYO FM賞)

### 『モル』

監督:タナダユキ(『百万円と苦虫女』『ふがいない僕は空を見た』)2000年/76分 出演:タナダユキ、岩波才靖、辻マガル、辻イトコ、水田真緒

瞳目するのは監督自身が演じる魅力満載のヒロイン。女性にとって理不尽で、そして聖域でもある「生理」をベースにした縦横無尽で問答無用なストーリー展開に圧倒される!



『PFFアワード2001』グランプリ&プリリアント賞(日活賞)&観客賞(大分・福岡・仙台)

これまでのPFF最終審査員 \*敬称略

1979年「OFF THEATER FILM FESTIVAL '79」★3回目のこの年より最終審査員を置き、各人の推薦作品を上映するシステムに磯野好司、大久保賢一、大島 渚、大林宣彦、かわなかのぶひろ、高林陽一、原 将人、はしのあきら、松田政男、松本俊夫

1981年「第4回びあフィルムフェスティバル」大島 渚、大林宣彦、大森一樹、かわなかのぶひろ、長谷川和彦、原 将人、日比野幸子、はしのあきら、松田政男、松本俊夫

1982年「第5回びあフィルムフェスティバル」大島 渚、大林宣彦、大森一樹、かわなかのぶひろ、寺山修司、長谷川和彦、原 将人、日比野幸子、はしのあきら、松田政男、松本俊夫

1983年「第6回びあフィルムフェスティバル」大島 渚、大林宣彦、大森一樹、かわなかのぶひろ、寺山修司、松本俊夫、大久保賢一、長崎俊一、原 将人、日比野幸子、はしのあきら、松田政男

1984年「第7回びあフィルムフェスティバル」石井聰互(岳龍)、大久保賢一、大島 渚、大林宣彦、大森一樹、かわなかのぶひろ、長崎俊一、長谷川和彦、原 将人、日比野幸子、はしのあきら、松田政男、松本俊夫

1985年「第8回びあフィルムフェスティバル」石井聰互(岳龍)、大久保賢一、大島 渚、大林宣彦、大森一樹、田中未知、長崎俊一、長谷川和彦、日比野幸子、はしのあきら、松田政男、松本俊夫

1986年「第9回びあフィルムフェスティバル」大林宣彦、宮島秀司、市川 準、高橋源一郎、佐野元春、大里洋吉

1990年「第13回びあフィルムフェスティバル」篠田正浩、林 海象、山田耕大、大岡 玲、鴻上尚史

1987年「第10回びあフィルムフェスティバル」大島 渚、大林宣彦、大森一樹、かわなかのぶひろ、原 一男、松本俊夫

1988年「第11回びあフィルムフェスティバル」★この年より、コンペティション「PFFアワード」となり賞が設けられる一瀬隆重、大久保賢一、大島 渚、大森一樹、金子修介、三上博史

1989年「第12回びあフィルムフェスティバル」大林宣彦、宮島秀司、市川 準、高橋源一郎、佐野元春、大里洋吉

1990年「第13回びあフィルムフェスティバル」市川 準、木村威夫、山本容子、伊地智 啓、あがた森魚

1991年「第14回びあフィルムフェスティバル」吉田喜重、長崎俊一、増田久雄、竹中直人、辻 仁成

1992年「第15回びあフィルムフェスティバル」大島 渚、岡田 裕、横尾忠則、松岡錠司、室井 滋、佐俊彦

1993年「第16回びあフィルムフェスティバル」澤井信一郎、筒井康隆、萩尾望都、黒沢 清、山崎陽一

1994年「第17回びあフィルムフェスティバル」市川 準、木村威夫、山本容子、伊地智 啓、あがた森魚

1995年「第18回びあフィルムフェスティバル」深作欣二、井筒和幸、桃井かおり、日比野彦彦、李 鳳宇

1996年「第19回びあフィルムフェスティバル」工藤栄一、安西水丸、高橋洋子、中野裕通、村上 龍

1997年「第20回びあフィルムフェスティバル」東陽一、堀越謙三、林真理子、崔洋一、秋元康

1999年「第21回びあフィルムフェスティバル」中島貞夫、篠山紀信、河瀬直美、松任谷正隆、浅井 隆

2000年「第22回びあフィルムフェスティバル」新藤兼人、立川直樹、山口小夜子、原田眞人、梶井省志

2001年「第23回びあフィルムフェスティバル」黒木和雄、筑紫哲也、松田美由紀、森 昌行

2002年「第24回びあフィルムフェスティバル」石井輝男、わたせせいぞう、西田尚美、田口モロヲ、SABU

2003年「第25回びあフィルムフェスティバル」鈴木貞夫、篠山紀信、河瀬直美、松任谷正隆、浅井 隆

2004年「第26回びあフィルムフェスティバル」若松孝二、みうらじゅん、緒川たまき、犬童一幸、市山尚三

2005年「第27回びあフィルムフェスティバル」恩地日出夫、青山真治、椎井友紀子、菅我部恵一、オダギリジョー

2006年「第28回びあフィルムフェスティバル」伊藤俊也、緒方 明、やまだだいすけ、小川真司、伊勢谷友介

2007年「第29回びあフィルムフェスティバル」鈴木則文、石井竜也、吉野明美、根岸洋之、浅野忠信

2008年「第30回びあフィルムフェスティバル」佐藤純彌、石井聰互(岳龍)、森本千絵、孫 家邦、香取慎吾

2009年「第31回びあフィルムフェスティバル」諏訪敦彦、下田淳行、三浦しをん、吉田大八、松田龍平

2010年「第32回PFFびあフィルムフェスティバル」根岸吉太郎、橋口亮輔、角田光代、板尾創路、久保田 修

2011年「第33回PFF びあフィルムフェスティバル」阿部秀司、塚本晋也、南 果歩、瀬々敬久、瑛太

2012年「第34回PFF びあフィルムフェスティバル」高橋伴明、行定 勲、川内倫子、新井浩文、川村元氣

# 21世紀のPFF

4月7日[日]、14日[日]、19日[金]

近年のPFF入選作品のなかから、7作品を3プログラムに構成します。自主制作映画のDVD発売、劇場公開が身近になった21世紀。デジタル機器の発達、映画学校の増加やインターネットの浸透により、撮影方法も、スタッフやキャストの集め方も変化しました。PFFの始まった1977年には想像もできなかった、新たな制作環境が生まれています。

4月14日[日] 21:20

### 『アンナと二階の部屋』

監督:田崎恵美 2009年/15分 出演:本多由佳、橋口勇輝、小山駿助、橋本沙珠、千石麻里子

損得の判断でしか日々を生きていない女。奔放で、いいかげんでズルくて、でもひどく現代的なヤカリ娘を15分という短い尺の中で軽やかに泳がせる。生きた人間描写が楽しく弾み人気を博した。



『PFFアワード2010』企画賞(TBS賞)&エンタテインメント賞(ホリプロ賞)

### 『IMMEASURABLE MYSTIC BOOK』

監督:平沢翔太 2005年/22分 出演:マーク・ウルーフ、ヘイディー・ブーマイン、吉村真信、篠田知宏

未開の島で発見された不思議な生き物たちの奇妙な生態系を、豊かな想像力とウィットに富んだ感性でCGを駆使しながら巧みに描いた。予測不可能な疑似ドキュメンタリー。



『PFFアワード2006』審査員特別賞&エンタテインメント賞(エイベックス・エンタテインメント賞)&GyaO賞(USEN賞)

### 『普通の恋』

監督:木村承子 2008年/45分 出演:長嶋のぞみ、内田義之、大車妙子、宇野祥平、木村勝幸

特異な美術&衣裳感覚で他の追随を許さぬロリータ・エロスを展開し、観る者を戸惑わせ、時には虜にする。『恋に至る病』でも炸裂した「性」をPOPで軽やかに切り取る感性がここにも!



『PFFアワード2009』審査員特別賞

4月7日[日] 21:20

### 『101』

監督:酒巻大樹 2010年/30分 出演:柿崎えりか、工藤圭一、山崎敬史

いつも誰かに見られている恐怖。これぞ暗黒「ドラスモン」。すこしふしぎなデジタル機器が人の心の後ろ暗さを剥き出しにするオムニバス形式のワンルームSF。もっともっと観たくなる。



『PFFアワード2011』入選

### 『くじらのまち』

監督:鶴岡慧子 2012年/70分 出演:飛田桃子、片野 翠、山口佐紀子、佐藤憲太郎、中嶋 健

高校最後の夏休み。仲良し3人組で失踪した兄を捜す旅に出たまち。変化の予兆。未知なる自分。折々に挿入される映画の記号に監督の才気が煌めき、ベルリン国際映画祭でも喝采。



『PFFアワード2012』グランプリ、ジェムストーン賞(日活賞)

4月19日[金] 21:20

### 『くらげくん』

監督:片岡 翔 2009年/14分 出演:安田 蓮、郡司大輝

乙女チックなくらげくんはガキ大将タイプの虎太郎が大好き。この想い届くのか?永遠のノスタルジーと現代が同居する新世代の子供映画が誕生!みんなふたりが好きになる。



『PFFアワード2010』準グランプリ

### 『かしい狗は、吠えずに笑う』

監督:渡部亮平 2012年/94分 出演:mimpi'β、岡村いずみ、石田剛太、仁後亜由美、佐藤幾優

いじめのはびこる高校。ひっそり過ごす女子高生がみつけた絆の行方は……。壊れやすく傷つきやすい友情を、緊張感漲るタッチと確かなストーリーテリングで描く衝撃的ドラマ。



『PFFアワード2012』エンタテインメント賞(ホリプロ賞)、映画ファン賞(びあ映画生活賞)